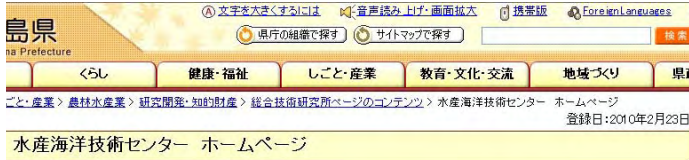


ホームページ をリニューアルしました！

サーバー容量から掲載内容が限られていた当センターのホームページを広島県ホームページに移動し、リニューアルしました。これにより、成果情報など内容を充実させていく予定です。

なお、地先水温や赤潮観測結果など随時更新しているデータは、これまでのHTTPアドレスからもアクセスできます。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/page/1262658089519/index.html>



広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター

水産海洋技術センターでは地域の水産業に密着した技術開発、技術相談、依頼試験などを行い、広島県の水産業を支援しています。

お知らせ
内容（平成22年2月22日更新）

- 平成22年2月5日に平成21年度研究成果発表会を開催しました。結果レポート
- 平成21年11月15日に水産海洋技術センター一般公開を開催しました。結果レポート
- 平成21年10月21日に平成21年度広島県立総合技術研究所成果発表会で「広島新ブランドかき（一粒かき）の技術開発」について発表しました。結果レポート

水産海洋技術センターのトップページはこちらのサイトに移動しました。旧サイトのコンテンツへは[サイトマップ](#)（右側）からアクセスできます。

各種お問い合わせは水産海洋技術センター技術支援部まで
直通電話番号 0823-51-2173 | [電子メール](mailto:skygyjtsu@pref.hiroshima.lg.jp) skygyjtsu@pref.hiroshima.lg.jp

住所 〒737-1207 広島県呉市菅戸町波多見6丁目21-1
代表電話番号 0823-51-2171 ファックス番号 0823-52-2683

第10回広島湾研究集会

広島湾研究集会が平成21年12月18日に広島県情報プラザで開催されました。

この研究集会は日本水産海洋学会の地域集会として、広島湾を研究の場としている研究者や関係者が一同に会し、問題点や今後の方策を検討しようというものです。今回は「藻場の機能評価と再生」をテーマに次の6課題の発表が行われ、活発な意見交換が行われました。

- 瀬戸内海・広島湾の藻場の特性と再生の課題
吉田吾郎（水総研 瀬戸内水研）
- 超音波による藻場計測と藻場分布に経年変化
谷本照己（産総研 中国センター）
- 広島湾南部海域における海藻類の生産と分解の定量的評価
橋本俊也（広島大院）
- 稚魚のゆりかごとしての藻場の機能の定量的評価
小路 淳（広島大院）
- 藻場と魚類の空間分布に基づく漁業生産機能の推定
堀 正和（水総研 瀬戸内水研）
- 実生苗床を使ったアマモ場修復手法の開発
相田 聡（広島総研 水産海洋技術センター）

トピックス

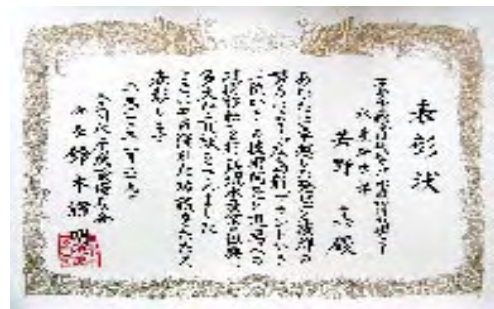
若野副主任研究員、 全国水産試験場長会 会長賞を受賞！

水産研究部の若野副主任研究員が、平成21年度の全国水産試験場長会会長賞を受賞しました。

この賞は、地域水産業の振興に顕著な成果を収めた研究者やグループを対象に授与されるもので、今回の受賞は「一粒かきの技術開発と現場への技術移転」の功績によるものです。

内容は、広島県が全国に先駆けて開発した三倍体かきの種苗の一部がコレクター（採苗器）に付着せず無駄になっていることに着目し、生分解のビニールシートに付着させて一粒かきを得る手法を開発したことです。さらに海面筏でポンプと波浪を利用した中間育成技術の開発やカゴによる稚貝の育成技術も併せて開発して出荷サイズまで、一連の一粒かきを育成する技術を完成させました。種苗生産と中間育成技術は栽培漁業協会に、カゴによる一粒かき育成法は漁業者に技術移転され、平成19年から栽培協会が1センチ種苗を本格生産するに至りました。生産者はこの一粒かきを「ひとつぶくん」、「大一粒かき小町」などと命名して、新たな広島かきのブランドとして商品化が進んでいます。

平成22年1月29日に、横浜市の中央水産研究所で受賞式と受賞講演が行われました。表彰式では、会長の鈴木愛知県水産試験場長から、「研究成果の現場への普及を重視する会長賞の趣旨にまさに合致する。」とコメントと激励がありました。なお、研究成果の詳細については、生物研究社が発行する「海洋と生物」に掲載される予定です。



またまた珍魚、ギンカガミが獲れる！

10月に江田島市沖で、変わった魚が獲れたとの報告がありました。この魚は、体長15cmで、写真のとおり鏡のように光っており、図鑑から熱帯性のギンカガミ科のギンカガミと判りました。広島地方では「カガミイオ」と呼ばれていると記載されていました。

